

長州ファイブと 横浜開港150周年 記念フォーラム

CHOSYU-FIVE & Y150 COMMEMORATION FORUM

主催 国立大学法人 山口大学 | DEC 財団法人 横浜企業経営支援財団

パネルディスカッション開催 「ヨコハマとやまぐち・連携の未来」

去る8月26日、約400名が参加し、宇部全日空ホテルにおいて山口・横浜の産学連携と横浜開港150周年を記念して、「長州ファイブと横浜開港150周年記念フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、財団法人横浜企業経営支援財団と山口大学が昨年10月、地方国立大学第1号となる産学連携協定を締結されたことにより、「ヨコハマ」と「やまぐち」が連携を進めていくことを目的として、このたびキックオフイベントとして行われたものです。

■長州ファイブに学ぶ！

フォーラムのコンセプトは「150年前に開国・開港して間もない横浜港から、苦難を乗り越え英国に学び、近代日本の礎を築いた長州人（長州ファイブ）の熱き心を現代に目覚めさせる」ということから、会場には山口大学生を始め、宇部市民など多くの若い人達が参加し、特別講演や体験発表、パネルディスカッションなどの熱い話に耳を傾けていました。

当日は丸本卓哉山口大学学長、横浜企業経営支援財団の清水利光理事長による開会挨拶の後、オープニングセレモニーではお二人の硬い握手が交わされ、また、フォーラムでは映画「長州ファイブ」の映画監督、五十嵐 匠氏による特別講演、横浜市立大学名誉教授の加藤祐三氏による「横浜開港秘話」講演、「ロンドン留学を通して」と題して山口大学大学院出身の貞廣育子氏による体験発表、そして、パネルディスカッション、懇親会などが開催されました。

「ヨコハマとやまぐち・連携の未来」と題して行われたパネルディスカッションでは、パネラーに山口の企業を代表して弊社の柳屋社長が招かれ、山口大学工学部の三浦房紀学部長、横浜市の光造形システム製造会社「シーメット」の萩原恒夫常務、横浜企業経営支援財団の吉田正博理事の4名が出席し、産学連携について1時間、様々な意見交換が行われました。

柳屋社長は、地域に必要なことは「風を感じる」と「感性を磨くこと」、また、数年前に前々学長の廣中平祐さんに「地域と連携しない大学は生き残れない、そして、地域も残れない」と言われたことに驚いた。それまでは大学という所は「違う世界で、違うことをやっている」というイメージだったが、今では敷居も低くして頂いている。産学連携の上手く行く方法としては交流事業を沢山行い、「人と人とのつながり」を大切にすること。また、産学連携の問題点としては、企業の問題点として「商品開発を自分たちだけでやってしまおうとする」と、「新しい技術は人に言わないで囲い込んでしまおう」となどが考えられる。しかし、全部が出来て、全て解決する訳ではないため、信頼関係を築き上げることが大事と発言。また、コーディネーターを務められた山口大学の産学公連携・イノベーション推進機構の堀 憲次副機構長は最後に「長州ファイブは150年前、開国前の日本から外に出て行った。山口県人はそういった心があるはず。産学連携において、イノベーションは地域単独では出来ない。新技術の種となる「シーズ」は大学で行うが、そこには広域から技術を持ってきて「イノベーション（技術革新）」を作り出す。しかし、1番重要であり、1番アナログな所は「人と人とのつながり」である。」と総括され、フォーラムは終了しました。

ヨコハマとやまぐち・日本の未来のために

2008年10月山口大学と財団法人横浜企業経営支援財団は、産学連携協定を締結。実質的な連携に向けて今、「ヨコハマ」と「やまぐち」が動きはじめた。



(左) 遠藤謹助 (中央) 井上勝 (右上) 伊藤博文 (左下) 井上馨 (右下) 山尾庸三

一幕末の歴史に秘められて真実が、今、ここに明かされる！

「フォーラム開催記念特集」——長州ファイブとは——

長州ファイブ（五傑）とは、ペリー率いる黒船の浦賀来航から10年後、外国を打ち払おうとする攘夷の嵐が吹き荒れる幕末期の1863年、外国を排斥するだけでは何も変えられないと敢えて敵を知るためにイギリスに命をかけて密航し、主にロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジなどに留学した「井上聞多（馨）、遠藤謹助、山尾庸三、伊藤俊輔（博文）、野村弥吉（井上勝）」の若き長州藩の5人の志士達を指す。5人はロンドンで英語を会得しつつ大学で学び、それぞれが興味のある分野の技術や知識を貪欲に吸収し、「生きたる機械」となって日本に持ち帰り伝えた。それは明治維新の原動力となり、5人は日本の行政、産業等の各分野で重要な役割を果たし、近代日本の礎を築き偉大な足跡を残した。イギリス人は敬意を込めて「長州ファイブ（Chosyu Five）」と呼び、ロンドン大学では顕彰碑が建てられている。近年、山口県でも山口市の秋穂二島や山口大学正門前に顕彰碑が建てられ、石碑には「はるかなる ころのすえは やまとなる」と石文が刻まれ、井上（馨）は外交の、遠藤は造幣の、山尾は工学の、伊藤は内閣の、井上（勝）は鉄道の、それぞれ「父」とされている。



外交の父

井上馨 (いのうえかおる)
渡航時28歳 (1835～1915)
山口市出身。初代外務大臣。
欧化政策を推進し、不平等条約改正に尽力する。

帰国直後、下関戦争（馬関戦争）講和交渉で通訳を務める。その後、藩論をめぐる対立から、「俗論派（幕府の命じるままに従おうとする派）」に襲われ重傷を負う。幕府の第2次長州征伐に対し諸隊を率いて戦い、倒幕のきっかけとなる。1885年第1次伊藤内閣で外務大臣に就任、維新外交の始祖となった。

内閣の父

伊藤博文 (いとうひろぶみ)
渡航時22歳 (1841～1901)
熊本郡出身。初代内閣総理大臣
大日本帝国憲法を發布。
4度首相を務める。

帰国直後、井上馨とともに下関戦争（馬関戦争）講和条約で通訳を務める。明治の新政府要職を歴任後、1885年、内閣制度をつくり、初代内閣総理大臣に就任。憲法草案をまとめ、大日本帝国憲法として発布するなど、立憲政治の確立につとめた。1909年、中国ハルビン駅にて撃たれる。



造幣の父

遠藤勤助 (えんどうきんすけ)
渡航時27歳 (1836～1893)
萩市出身。初代造幣局長
造幣事業に一生を捧げ、「お雇い外国人」から独立し、日本人の手による貨幣造りに成功する。

学業半ばにして、体調を崩し、1866年、無念の帰国。帰国後、大阪造幣局長を12年近くもつとめ、造幣局の整備に尽力。大阪造幣局の名物「桜の通り抜け」は遠藤勤助の発案。

工学の父

山尾庸三 (やまおようぞう)
渡航時26歳 (1837～1917)
山口市出身。初代法制局長官
グラスゴーで造船を学び、明治4年に工学寮（のちの東京大学工学部）を創立。聾盲啞教育の父でもある。

井上勝とともに最後までイギリスに留まる。産業革命発祥の地・グラスゴーで見習工として働きながら、夜学で科学の原理などを学び、造船技術を身につけた後、明治元年1868年に帰国。工業を興し近代化を進めるには人材を育てることが不可欠だと考え、工学寮（現在の東京大学工学部）を設立、日本工学の父となる。また、日本初の盲啞学校を設立。



鉄道の父

井上勝 (いのうえまさる)
渡航時20歳 (1843～1910)
萩市出身。初代鉄道局長官
新橋ー横浜間に日本初の鉄道敷設工事を指揮した。小岩井農場の創設者。

イギリスで鉄道や鉱山学を学び、帰国後、鉄道頭、鉄道局長官などを歴任。工事責任者として日本初の新橋・横浜間の鉄道を開通させる。以後、新橋・神戸間、東京・青森間開通など日本の鉄道開発に情熱をささげ続け、日本鉄道の父と呼ばれる。鉄道院顧問としてヨーロッパ鉄道視察中、ロンドンで客死。

長州ファイブとその時代

1853年の黒船来航以来、外国からの脅威が表面化してくると、天皇を尊崇し、外国を打ち払うことを主張する「尊皇攘夷」の考えに基づく運動が大きな流れとなってゆく。その運動は安政の大獄によって打撃を受けるが、5人が密航した1863年頃から更に激しさを増し、運動の舞台は京都となる。ちなみに新撰組が結成されたのもこの年。新撰組は翌1864年の池田屋事件など尊皇攘夷派志士の取締りで名を馳せた。同年、5人のうち井上馨と伊藤博文は、長州藩の外国船砲撃を知りイギリスから帰国、藩に藩論である攘夷を開国に転換することを説くが聞き入れられず、4国は長州への攻撃を開始（下関戦争（馬関戦争））、長州藩は大敗、外国の威力を身を持って知ることになる。一方、当時のイギリスは、ビクトリア朝時代の最盛期にあたり、特に鉄道の驚異的な発達、人々の生活を大きく変化させていた。



映画「長州ファイブ」はもう観られましたか！？ヤナギヤも協賛しています！！

200年以上鎖国を続けてきた日本から、広い世界へ飛び出した若者たち。前例のない試みに果敢にチャレンジしてこそ道は開けるのだと身をもって証明した先駆者たちだ。教育、政治、産業と後に近代日本の基盤をつくった彼らを英国の新聞は「長州ファイブ」と呼んだという。5人を受け入れる英国側の度量の大きさにも感心するが、礼儀正しく向学心に富み勤勉でなおかつ物怖じしない彼らの姿には人の心を打つ美しさがある。『地雷を踏んだらサヨウナラ』『アダム』など常に実在の人物を生き生きと描いてきた五十嵐匠監督の演出は、松田龍平演じる山尾庸三に焦点を当てた後半に冴えを見せる。気骨ある男たちを体現した5人の俳優も好演。2007年4月第40回ヒューストン国際映画祭でレミアワードグランプリ（最優秀賞）受賞。（2006年作品・119分）

（映画「長州ファイブ」webサイトより）